

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 7 区分
 【発行日】平成 26 年 11 月 27 日 (2014.11.27)

【公開番号】特開 2013-116816 (P2013-116816A)
 【公開日】平成 25 年 6 月 13 日 (2013.6.13)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-030
 【出願番号】特願 2011-266085 (P2011-266085)
 【国際特許分類】

B 6 5 H 75/14 (2006.01)

【F I】

B 6 5 H 75/14 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 26 年 10 月 9 日 (2014.10.9)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 4】

また、軽量化部 4 の中心側端部と外周部側端部の厚さの比 $H_1 : H_2$ は、必要な剛性を確保し且つフランジ外周部の軽量化を図る観点からは、好ましくは 5 : 4 ~ 3 : 2 であり、より好ましくは 4 : 3 である。

具体的には、好ましい中心側の軽量化部 4 の大きさ H_1 は、1.90 ~ 2.10 mm であり、好ましい外周部側の軽量化部 4 の大きさ H_2 は、1.45 ~ 1.55 mm である。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 5】

さらに、リブ 5 の外周部 (外側ガイド部 5 b) の高さ h は、必要な剛性を確保し且つフランジ外周部の軽量化を図る観点からは、0.4 ~ 0.5 mm とすることが好ましい。

さらにまた、リブ 5 間の間隔 (クリアランス) C は、リブ面への接着フィルム貼り付き防止と隙間への接着フィルム脱落防止の観点からは、接着フィルム 6 の幅に対し、0.05 ~ 0.10 mm 離間するように設定することが好ましい。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 4】

一方、リブ 5 のフランジ外周部 (外側ガイド部 5 b) における高さ h は、第 1 及び第 2 フランジ部 1 1、1 2 の内側面から 0.5 mm となるようにした。

また、リブ 5 の内側ガイド部 5 a は、等間隔で 1 2 本設けた。

このリール部材 1 に、接着フィルム 6 として長さ 500 m の異方導電性接着フィルム 6 を巻き取った。

【手続補正 4】
 【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 4】

1

